

秘

昭和十四年十月四日

興亞院政務部第一課長

業務主任者殿

熱海會議開催ニ關スル件

豫テ貴意ヲ得置キ候首題會議左記要領ニ依リ實施致度ニ付御諒承ノ上
出席者氏名並ニ宿泊個所折返シ御回報相煩度候也

記

二期日

十月八日 九日 兩日

二會場

熱海 玉乃井旅館

三會議日程

第一日(八日)

- | | | | |
|-------|----|------|----------|
| 一〇・三〇 | 時分 | 會議開催 | 一、甲先中後各席 |
| 一二・三〇 | | 會議中止 | 食 |
| 一三・三〇 | | 會議再開 | 二、能為 |
| 一七・〇〇 | | 會議中止 | 食 |
| 一九・〇〇 | | 會議再開 | 三、能為 |
| 二一・〇〇 | | 會議中止 | 食 |
- 四、能為
五、能為
六、能為

第二日（九日）

八時〇〇分 會議續行

一一・三〇 會議中止 晝食

一三・〇〇 會議再開

一七・〇〇 會議終了 解散

トキヨウ

四備考

(1) 宿泊個所

當方ニ於テ玉乃井旅館ニ室ヲ豫約セルヲ以テ他ニ宿泊セラルル
向ハ至急通報セラレ度

(2) 旅費

興亞院被仰付事務官ノ身分ヲ有スル者ハ本院ヨリ出張發令シ其

ノ他ノ者ハ當該官廳ヨリノ出張命令ヲ受クルモノトス

極秘

支那側ニ對スル我指導機構案

昭一四一〇五
大藏省案

第一方 針

一、新中央政府高度自治機關其他特定機關ニ對スル我指導ハ政治、經濟、文化各般ニ互リ我方ノ派遣スル顧問ヲ通ジテ之ヲ爲スヲ本則トシ且特定機關中所要ノモノニ付テハ邦人ヲシテ支那側職員タラシムルモノトス

右ノ外特ニ必要トスル場合ニハ日支共同委員會ヲ設置スルモノトス

二、右指導ハ帝國ノ總意ガ支那側ニ如實ニ反映スル如ク配意スルモノト

シ之ガ爲興亞院機構ヲ整備スルト共ニ顧問ハ原則トシテ興亞院ニ屬

セシムルコトトシ且日本側現地諸機關ノ連絡統制ヲ圖ル爲興亞院總

裁ノ監督ニ屬スル現地連絡委員會（假稱）ヲ設置スルモノトス

三、新中央政府樹立後ハ現在ノ樹立工作機關ハ政治、經濟、文化ニ關ス

ル限リ興亞院現地機關ニ吸收セララルモノトス

四、軍事ニ關スル事項ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルモノトス

第二 要 領

一、新中央政府樹立後承認ニ至ル迄ノ期間

(一) 現行顧問制度ハ之ヲ履行存續セシム

(二) 既設興亞院現地機關ハ之ヲ現存セシメ其ノ整備ヲ圖ルト共ニ所
要ノ地ニ現地機關ヲ新設ス

(三) 主トシテ中央政府樹立ニ伴ヒ新支那全般ニ互リ處理ヲ要スル重要

事項ニ付日本側現地諸機關ノ連絡統制ヲ圖ル爲現地連絡委員會

(假稱)ヲ設置シ興亞院總裁ノ監督ニ屬セシム

右委員會ノ構成其他ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

(四)日支強度結合及協力ヲ具現スル爲所要ニ應ジ日支共同委員會ヲ設置ス其ノ細目ハ別ニ之ヲ定ム

(五)新中央政府樹立現地工作機關ハ中央政府樹立ト同時ニ新支那ノ政治、經濟、文化ニ關スル限り前記(三)ノ委員會ニ吸收セララルモノトス

ニ新中央政府承認後

(一)顧問制度、邦人職員制度及日支共同委員會制度條約化ス(秘密協

定トス)

(二)興亞院機構(現地連絡委員會ヲ含ム)ハ之ヲ存續ス

(三)特命全權大使ハ一般大使ノ任務ノ外現地連絡委員會委員長(假稱)ヲ兼務ス(即チ支那ニ對スル政治、經濟、文化ニ關スル指導ニ關スル限り興亞院總裁ノ指揮監督ヲ受クルモノトス)

支那中央政府ニ對スル政治、經濟、文化ニ關スル指導ハ現地連絡委員會委員長ニ於テ之ヲ行フ

註 興亞院華中連絡部ハ揚子江下流地域ニ於ケル日支強度結合地帶ニ關スル支那側ノ指導ニ當ルモノトス

極秘

政 權 樹 立 工 作

昭一四一〇五
(森岡次長携行)

一、十月中旬

出先日本側ノ對策案ヲ持チ寄り意見ヲ交換シ一致ヲ圖ル
場所ハ福岡ト豫定ス

此際中央ヨリモ派員ヲ要請ス

集 合 人 名

喜多、原田、津田、影佐、川本北支及中支軍ヨリ代表
中央ヨリモ派員ノ事

二、十月下旬

臨時、維新兩政府聯合委員會ヲ北京ニ於テ開催ス

此際王精衛ヲ北京ニ招致シ三巨頭會見意見ヲ交換セシム

十月中旬ノ日本側意見ヲ内示シテ此方針ニ指導ス

三、十一月上旬

三巨頭ヲ東京ヘ派遣シ新内閣ニ直面セシメ日本側ノ確固不動ナル方針ヲ會得セシム

四、十一月下旬

十一月下旬迄ニ中央政治會議ヲ南京ニ於テ開催セシム

中央政治會議ニ於テハ王精衛ノ提議スル議案ハ反對ナク通過セシムル如ク工作シ置クモノトス

五、十二月中旬

政府ヲ樹立ス

極秘

對支處理研究打合業務豫定

一四一〇一六
連絡委員會

十月 八日 (日) 熱海會議
九日 (月)

十一日 (水) 主任者會議 (一三・三〇ヨリ)
十二日 (木) 興亞院第一會議室

十四日 (土) 連絡委員會 (一二・二〇ヨリ)
十六日 (月) 興亞院第一會議室

十八日 (水) 午前右津備

二十日 (金) 關係諸官會議 (自一〇・九・〇〇)
二十一日 (土) 至一七・〇・〇〇

研究打合事項

一 事前工作

二 政治形態

三 指導機構

四 確約事項

五 其他打合

Handwritten notes and signatures on the left side of the schedule.

秘

新中央政府樹立後ノ日本側指導機構ニ
付考慮スヘキ要點

昭一四一〇七
興亞院政務部

一、外務省トノ關係ニ付テ

(一) 大使館領事館ノ外ニ連絡部ヲ存置スル案

(イ) 大使ト中央連絡部長官トヲ別人ヲ以テ任ズル案

(ロ) 大使ヲシテ中央連絡部長官ヲ兼任セシムル案

1. 兼任ハ大使ト中央連絡部長官ノミニ止ムル案

2. 參事官又ハ總領事ヲシテ地方連絡部長官又ハ出張所^長兼任セ

シムル案

(二) 大使館ニ連絡部ヲ設置シ大使ノ指揮監督下ニ連絡部長官ヲ置キ興

亞院總裁ハ大使ヲ指揮監督スル案

(三) 中央政府ノ指導ニ付テハ中央連絡部ヲ置カズ大使館ノミテユキ、

地方政權 (中央政府ニ對シ特殊ノ自治權ヲ有スル特別市ヲ含ム、

以下同シ)ノ指導ニ當ル爲地方ニノミ連絡部ヲ置ク案

(イ) 右ノ連絡部ヲ直接興亞院總裁ノ指揮監督下ニ置キ、從ツテ興亞

院總裁ハ中央政府ノ指導ニ付テハ大使ヲ指揮監督シ地方政權ノ

指導ニ付テハ連絡部長官ヲ指揮監督スル案

(ロ) 右ノ連絡部ヲ大使ノ指揮監督下ニ置キ興亞院總裁ハ大使ノミテ

指揮監督スル案

(四) 連絡部ヲ廢止シ大使館領事館ノミテユク案

(イ) 興亞院トノ關係ニ付テ

1. 興亞院ヲ存置シ興亞院總裁ハ直接大使及領事ヲ指揮監督スル案

2. 興亞院ヲ存置シ興亞院總裁ハ外務大臣ヲ經由シテ大使及領事ヲ指揮監督スル案

3. 興亞院ヲモ廢止スル案

(ロ) 人的要素ノ關係

1. 連絡部ノ人的要素ヲ大使館領事館ニ採リ入ルル案

2. 連絡部ノ人的要素ヲ採リ入レス純粹ナル外交官領事官ノミテ

ユク案

三、陸海軍トノ關係（外務、大藏現地機關トノ關係ニモ觸ルル部分アリ
ニ付テ

(一) 現在ノ機構ニ變化ヲ加ヘズ興亞院設置ノ趣旨ニ鑑ミ連絡部ハ第三
國ニ對スル外交ヲ除ク政治、經濟、文化ヲ掌リ陸海軍ハ純粹ニ軍
事務ヲ掌リ、業務分界ヲ一層明確ニシツツ各々其ノ業務ニ集中
スルコトニ努ムル案

(二) 陸、海、外、藏現地機關トノ間ニ現地連絡委員會ヲ設置シ連絡部
ハ現地連絡委員會決定ニ據リ業務ヲ行フ案

(三) 參謀長、特務機關長又ハ特務部長ヲシテ連絡部長官又ハ出張所長
ヲ兼任セシムル案

(四) 連絡部ヲ廢止シ陸海軍特務部ヲ復活スル案

三各地連絡部間ノ關係ニ付テ

(一) 中央連絡部ハ中央政府ニ對スル指導協力ヲ地方連絡部ハ地方政權ニ對スル指導協力ヲ掌リ、興亞院總裁ハ中央連絡部長官及各地方連絡部長官ヲ直接指揮監督スル案

(二) 中央連絡部ハ地方連絡部ヲ統轄シ、從ツテ興亞院總裁ハ中央連絡部長官ヲ指揮監督ス、中央連絡部長官ガ各地方連絡部長官ヲ指揮監督スル案

四顧問(純粹ノ技術顧問ヲ除ク)ノ機能ニ付テ

(一)指導ハ連絡部長官之ヲ爲シ、顧問ハ寧ラ支那側ノ立場ニ立チ其ノ
内部事情ニ精通シ連絡部長官ノ爲ス指導ヲ圓滑ナラシムル機能ヲ
果ス案

(此ノ考ヲ採レバ顧問ハ極メテ少數ノ常職圓滿ナル政治家ヲ選任セ
バ可ナルベシ)

(二)連絡部長官ノ指揮ニ從ヒ顧問ガ指導ヲ爲ス案

(此ノ考ヲ採レバ相當ノ專問知識ヲ有スル顧問ヲ各院各部ニ入ル
ルゴトトナズベシ)

五連絡部長官(又ハ大使若ハ領事)竝ニ顧問ニ依ル指導ノ外、是非日

系職員ヲ入レ又ハ日支共同ノ委員會ニ附議シテ事ヲ決セシムル仕組
ヲ採ル必要アル部門如何ニ付テ



極秘

30部内第11号

第二次中央政治會議指導方針

昭四一〇二七

大藏省案

第一、方針

本政治會議ハ新中央政府樹立ニ關シ支那側ノ態勢ヲ備フルヨリ日米
ナルモノナルヲ以テ、我方ノ内面指導ノ下ニ所要ニ應ジ數次ニ互
之ヲ開催セシムルモノトス

右指導ニ當リテハ新中央政府樹立方針及汪吳工作指導腹案（昭和十
四年六月六日五相會議決定）ニ則ルモノトシ且現下諸般ノ情勢ノ推
移ニ即應シテ事變解決ニ關シ最モ有效ニ其ノ機能ヲ發揮セシムルヲ

主眼トスルモノトス

三、中央政治會議ノ議題トシテハ一應汪側提案ノ諸項ヲ豫定スルヲ第一

本ノ會議ニ於テハ

(1) 討論ノ中心ヲ專ラ新中央政府ノ人的要素及基礎的實力ノ具備特ニ
重慶側諸勢力ノ切崩獲得ニ置カシメ汪ヲ中心トシテ吳、既成政權
等協力一致シテ之ニ當ルノ態勢ヲ完備セシムル如ク指導スルト共

(2) 日支間ノ新關係調整問題ニ付テハ深入スルコトナカラシムル如ク
指導スルモノトス

本指導ハ概ネ左記要領ニ據ルモノトシ第二次以後ノ指導要領ニ付テハ
別ニ之ヲ定ムルモノトス

(3) 日支間ノ新關係調整ニ付テハ新中央政府ノ構成分子ヨシテ我

30
極秘

30部内第 21 號

第一中央政治會議指導方針

昭和一四一〇一七
本職省案
昭和一四一〇一七

第一方針

中央政治會議ニ關シテハ豫メ新中央政府主要構成分子中所要ノモノニ對シ左記新中央政府樹立ニ付諸組織、政治形態等ニ關シ我方ノ要望事項ヲ諒解セシメタル上同會議ヲ開催セシムル如ク指導スルコトトシ同會議ニ於テハ右我方ノ要望事項ヲ確認セシメ以テ支那側ノ決議事項トノ間ニ矛盾スル處ナカラシムル如ク措置スルモノトス

主眼トスルモノトス

三 五 中央政治會議ノ議題トシテハ一應汪側提案ノ諸項ヲ豫定ナルキ第一

本ノ會議ニ於テハ

(4) 討論ノ中心ヲ專ラ新中央政府ノ人的要素及基礎的實力ノ具備特ニ重慶側諸勢力ノ切崩獲得ニ置カシメ汪ヲ中心トシテ吳、既成政權等協力一致シテ之ニ當ルノ態勢ヲ完備セシムル如ク指導スルト共

(5) 日支間ノ新關係調整問題ニ付テハ深入スルコトナカラシムル如ク指導スルモノトス

本方針ニ概テ左記要領ニ據ルモノトシ第一以後ノ指導要領ニ付テハ別子ニ決定スルモノトス

(6) 日支間ノ新關係調整ニ付テハ新中央政府ノ構成分子ヨシテ我

力ノ既定方針ヲ漸次獲得セシムル如ク所要ヲ指導ヲ行ハト
非上別ニ定ムル所ニ據リ中央政治會議後新中央政府樹立前
新中央政府ノ首班トナルヘキ者ヲシテ日本政府ニ對シ所要
ノ確約ヲ爲サシムルモノトス（「新中央政府樹立前新中央
政府ノ首班トナルヘキ者ノ日本政府ニ對スル確約ニ關スル
件」参照）

第三 要 領

- 一、中共の今後方針は、汪、吳、既成政權等ヲシテ新中央政府樹立方針及汪吳工作指導腹案ノ
主旨特ニ人的要素及基礎的實力ノ具備ヲ必要トスルコトヲ豫メ徹底
セシム

三、共 産 黨 中 心 基 礎 地 盤 ノ 設 定 、 對 重 慶 工 作 、 兵 力 整 備 、 資 金 準 備 等

- 各般ニ互ル人的要素及基礎的實力ノ具備ニ關スル準備ノ完成時ニ重慶側諸勢力ノ切崩獲得ニ置カシメ、汪ヲ中心トシテ吳、既成政權等協力一致シテ右準備ノ完成ニ當リ、應勢ヲ完備セシムル如ク指導ス
- ② 新中央政府樹立ノ時期及構成等ハ前記準備工作ノ進展ノ程度及全局ニ互ル情勢ヲ考慮シ日本側ト協議ノ上之ヲ定ムヘキモノナルコトヲ徹底セシメ過早ニ之ヲ決定スルコトナキ様指導ス
- ③ 新中央政府ノ政綱及政策ニ關シテハ日支新關係調整ニ關スル原則、既成事實ノ承認等日本側ノ要望ヲ充分ニ包含シ且之ト矛盾スル所ナカラシムル爲極メテ抽象的ナルモノニ付下相談セシムルモノヲ、第十末以後ノ會議ニ於テ之ヲ決定セシムル如ク指導ス

新中央政府ノ名稱及首都ニ付テハ概テ支那側ノ決定ニ委ヌルモノトス

本國旗ニ付テハ既定方針ニ據リ之ヲ指導スルモノトス

七各黨派ノ公認ニ付テハ新民會、大民會等ヲモテ考慮セシムルモノトス

八既成政府ノ名稱廢止、地方制度及地方自治ノ程度ニ關シテハ日本側ノ意向ニ依リテ決定スルモノトス

本以後ノ會議ニ於テ決議スル如ク指導スルモノトス

（註）日本側ノ要領ニ付テハ別ニ之ヲ定ムルハ支那側政治形態ニ對シ

（註）我方要領事項（参照）

中央政治會議ニ關シ「汪」等中央政府
構成分子ニ對スル事前工作

昭和十四年九月
案

中央政治會議ニ於テハ汪側ノ呈出セル時局收拾具體的辦法第四ノ決
議事項中中央政府樹立ニ關シ左記第一中央政府樹立ニ關スル大綱ヲ確
定セシムルモノトス

右大綱並之ニ關聯スル事項ニ付事前ニ日本側ノ要請ヲ諒解セシムル
爲汪等中央政府構成分子ニ對シ適宜之カ内面指導ヲ行フモノトス

第一 新中央政府樹立ニ關スル大綱

一、新中央政府ハ國民黨、既成政權、其他ノ黨派、翻意改替ノ重慶政

府等ヲ以テ其ノ構成分子トナシ其ノ適宜協力ニ依リ之ヲ樹立ス

新中央政府ノ基礎ヲ鞏固ナラシムル爲(軍閥諸勢力就中武力財力ノ
獲得並財政ノ基礎確立ニ關シ日本側ト連繫シテ具體的ニ万般ノ施
策ヲ講シ努力邁進スルモノトス

二、重慶政府カ抗日容共政策ヲ放棄シ且所要ノ人的改替ヲ行フコト並
ニ第一號及第三號ヲ受諾シタル場合ニハ之ヲ翻意改替セルモノト
認ムルモノトス

三、新中央政府ハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ準據シテ日支ノ國交
ヲ正式ニ調整スルモノトシ之カ構成ハ
日支新關係調整ニ關スル具體的事項ニ關シテハ中央政府樹立前日
右ノ如ク協定セラル

四、地方ニ於テハ改修利便ノ圖シテ其基礎ヲ鞏固シ且自給自足トスル外
特に各地方ノ要領トシテ之ノ日支ノ協力ヲ促シ且其ノ要領トシテ
之ヲ行フ事ヲ爲スルナラシムルノ措置ヲ採ルモノトス

本備案協定決定ス
新中央政府ノ構成並樹立ノ時期ハ全般ノ情勢ト前記諸項實施ノ成
果ヲ考慮シ更ニ日本側ト協議ノ上決定スルモノトス

人
1
2
3
4
5
6
7
8
9
10
11
12
13
14
15
16
17
18
19
20
21
22
23
24
25
26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50

新中央政府既成政權間ノ關係調整
ニ關スル要請

第一、蒙古聯合自治政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、蒙古聯合自治政府ト新中央政府トノ新關係設定ノ爲第一回中央

政治會議開催前（十月末頃）日本側指導ノ下ニ汪精衛又ハ其代

表者ト德王又ハ其代表者ト北京又ハ青島ニ於テ會見セシメ左記

事項ヲ文書ヲ以テ約ス

記

（一）支那新中央政府權ハ蒙古聯合自治政府ノ高度防共自治ノ既成事

實ヲ認ムルコト

(二) 兩政權ノ關係調整ニ關シテハ本了解ニ基キ新中央政府成立後
別途協定スルコト

二前號ノ了解成立セル際ハ第一回中央政治會議ニ蒙古聯合自治政
府ヨリ其代表者ヲ出席セシムルモノトス

但第一回中央政治會議ニ於テハ蒙古聯合自治政府ノコトニ關シ
テハ前記了解事項ノ範圍ヲ脱逸セル事項ニ付テハ論議セシメサ
ルモノトス

第二臨時政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、華北政務委員會ト新中央政府トノ關係及華北政務委員會ノ構成

權限並ニ軍事處理機關ノ隸屬系統及編成等ニ關スル具體的事項
ハ中央政治會議ニ於テ下協議ヲ行フヘキモ之カ決定ハ新中央政
府樹立直前ニ於テ臨時政府、中央政府ノ代表タルヘキ者トノ間
ニ於テ行フモノトス

二、臨時政府ノ政府ナル名稱ヲ廢止シ華北政務委員會ニ移行スル場
合ハ不取敢、既成ノ事實ヲ繼承シ政務ノ停止滯滯等無カラシムル

モノトス

第三維新政府ト新中央政府トノ關係調整要領

一、維新政府ノ立場ヲ尊重シ其動搖ヲ防止シツツ新中央政府ト融合
歸一スル如ク誘導シ且中央政權樹立迄ハ安シテ政務ヲ繼續スル

如ク指導ス

ニ、維新政府ヲシテ新中央政府樹立後政務委員會等ヲ設置セサルコトヲ納得セシムルモ其主要人物ノ體面ト地位トニ關シテハ汪側ヲシテ考慮セシム

三、維新政府解消シ新中央政府樹立セラレテ其業務ヲ繼承シタル場合政務ノ停止滯滞ナカラシムル爲差當リ既成事實ヲ繼承シ逐次調整ヲ行フモノトス

別紙

支那地方政治形態ニ關スル日本側要望

地方政治形態其他地方自治ノ程度ハ日支新關係調整原則ノ主旨ニ鑑ミ
善隣友好、共同防衛、經濟提携ノ三原則實行ニ必要ナル機能ヲ具備ス
ルヲ要ス

之ヲ爲各地域ニ對スル左記日本側要望ハ之ヲ該地政務機關ニ包含セシ
ムルモノトス

一、蒙 疆

蒙疆ハ國防上經濟上ノ日滿支三國強度結合地帯タル特殊性ニ鑑ミ高
度ノ防共自治區域トシ蒙古聯合自治政府ヲシテ高度ノ自治ヲ行ハシ

ムルモノトス

二、北 支

北支ハ日滿兩國トノ國防上經濟上ノ強度結合地帯タル特殊性ニ鑑ミ
日支新關係調整ニ關スル原則ニ基ク對日滿局地處理ノ爲中央政府ノ
下ニ在ル華北政務委員會（假稱、以下同シ）及軍事處理機關ヲ設置
スルモノトス

三、中 支

中支ニ於テハ日支新關係調整ニ關スル原則ニ基據シ揚子江下流地帯
ニ於テ日支經濟強度結合ノ具現ヲ容易ナラシムル爲日支協力事項ニ
關シ新上海ニ於テ行政機構上所要ノ措置ヲナスモノトス

四南支沿岸特定島嶼

南支沿岸ノ特定島嶼就中海南島ニハ國防上ノ特殊地位ニ鑑ミ局地的軍

事處理ニ必要ナル措置ヲ講スルモノトス

五新上海、厦門、青島

既成事實ヲ容認セシムルモノトス

8